



医療法人ソレイユ ひまわり在宅クリニック 医師・顧問
熊本YMCA常議員 むさし運営委員
ワイズメンズクラブ国際協会西日本区2022-2023年度理事
むさしワイズメンズクラブ 田上 正 さん

地域へ そして世界へ

メイン会場に635名が参加。熊本のワイズメンズクラブのメンバーはもとより、熊本YMCA学院の学生やユースリーダーも運営に携わり、大会は盛会のうちに幕を閉じました。「様々なところから来た人から『ありがとう』といわれると、嬉しいですね。皆さんに感動していただこうと思っていたのに、自分の方が感動して泣いてしまいました」と田上さんは振り返ります。

世界を見つめ、地域に生きる

「私がYMCAに関わりはじめたころ、YMCAではよく『Think Globally, Act Locally』と言われていました。世界を見つめながら、地域に根差した活動をするということです。YMCAが私たち会員に対して提供してくれる様々な機会が、地域や被災地、あるいは世界とつながっていると感じさせてくれます」。

2011年から約10年間、東京医科大学で勤務するために熊本を離れていた田上さん。熊本地震の際には、ゴールデンウィークを利用して熊本に戻り、YMCAの被災地支援に携わりました。「全国から駆け付けたYMCAの仲間と共に奉仕する中で、YMCAの精神を感じて、誇らしい気持ちになりました。最近では、2020年7月の熊本豪雨災害での活動もありましたね。地域に根差したこのような活動を通して熊本YMCAが評価されていると感じています」。

世界に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻やパレスチナ問題など、紛争が絶えません。日本のYMCAでは、ウクライナからの来日避難者を支援。12月には平和を願う祈りの会がオンラインで開催され、パレスチナで活動中の東エルサレムYMCAスタッフによる現地報告がなされました。「国際問題には民族や歴史、政治など様々な要素が関係しています。しかし私たちYMCAはどのような時でもただ純粋に平和をつくりだす団体でなければいけません」。

みんなでつくり上げるYMCA

ワイズメンズクラブ国際協会アジア太平洋地域の次々期会長に就任することが決まっている田上さん。2025年には熊本でアジア太平洋地域大会を開催する予定です。「昨年の西日本区大会のように、熊本YMCAにつながる若者たちと一緒に活動する姿を世界の人に見てほしい。熊本のユースの活動を披露することはアジアの若者の刺激にもなるでしょう」と田上さんは話します。「そして、この大会を通して熊本の人たちにもYMCAの魅力をもっと認識してもらえないのでしょうか。このようなYMCAとしての活動を強めて、若い人たちに憧れてもらえるような団体でありたいですね」。

「YMCAは皆でつくりあげていくもの」と語る田上さん。ともに活動を行っていくYMCA会員を増やすことが課題の一つです。「憧れてもらえるような存在であると同時に、YMCAに行ってみようかな、と思えるような身近なプログラムもつくっていったらいいですね。11月に開催したYMCAインターナショナル・チャリティーラン(4面に関連記事)もその一つです。楽しみを見つけてもらって、むすびつきを強めていくことで、YMCAという大きなまとまりをつくっていくのではないのでしょうか。私がYMCAで感じた『みつかる。つながる。よくなっていく。』を皆さんにも実感してもらいたいですね」。

もう一つの人生を楽しむ

「みつかる。つながる。よくなっていく。」 YMCAのボランティア会員の代表である常議員の一人である田上正さんは、日本のYMCAが掲げているこのスローガンを「まさにその通り」と語ります。1991年にYMCAを支える国際的な団体であるワイズメンズクラブに入会。これまで熊本YMCAの理事長を務めるなど、YMCAやワイズメンズクラブで様々な社会貢献に携わってきました。医師として多忙な日々を過ごす中で30年以上にわたり活動を続ける理由はどこにあるのでしょうか。「YMCAは『もう一つの人生』を楽しめる場所です。本業の仕事だけではできない経験ができる。それが楽しいですね。他の人の2倍生きているような感覚です。自分が求めているものが『みつかる』、様々な人と『つながる』、そのことで自分が『よくなっていく』のを感じられるのがYMCAです」。



昨年6月には西日本のワイズメンズクラブのメンバーが一堂に会する西日本区大会を熊本で開催。田上さんは西日本区の理事として大会会長を務めました。「地域から世界へ～私たちが目指す共生社会～」をメインテーマとして2日間

にわたった大会は熊本城ホールを

Pickup

市民クリスマス
加藤麻衣子
パイプオルガンコンサート



赤水保育園
クリスマス発表会

YMCA阿蘇キャンプ
看板リニューアル



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

能登半島地震災害支援募金

災害支援
×
募金

YMCAは1月1日に発生した石川県能登地方を震源とする地震により、支援を必要とし、困難な状況下にある地域の復旧復興、被災された方々の心のケアを支援するための募金活動を行います。具体的な活動内容は、富山YMCA、金沢YMCA、日本YMCA同盟等との連携により決定します。現在実施しているYMCA年末募金からの一部拠出の検討も含め、募金委員会などと連携しながら様々な支援活動の計画を進めていきます。

募金方法 熊本YMCA各拠点にお持ちいただくほか、Webサイトからクレジットカードでも受け付けます。

期 第1期 1月31日(水)まで

問 熊本YMCA本部事務局

Tel 096-353-6397



1月8日(月・祝)に上通・下通アーケードで街頭募金活動を行い、890,418円の募金が寄せられた

熊本バンド148周年記念行事

キリスト教
×
祈祷

熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じこの教えを日本全国に宣布しようと誓約した「熊本バンド」の青年たち。日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟148周年を記念して、講演会と早天祈祷会を開催します。

講演・奨励 村上みかさん

(同志社大学神学部教授・同キリスト教文化センター所長・日本ルター学会理事長)

講演会

日 1月29日(月) 18:30~20:30 **場** 日本基督教団熊本草葉町教会(熊本市中央区草葉町1-15) **テーマ** 愛と自由に生きた人々

早天祈祷会

日 1月30日(火) 6:30~7:30 **場** 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前(※雨天決行)

奨励 命を受ける

※講演会・祈祷会共にライブ配信をいたします。詳細は熊本YMCAのWebサイトでお知らせします。

催 熊本バンド148周年記念行事実行委員会

問 実行委員会事務局熊本YMCA Tel 096-353-6397

熊本バンド記念行事
Webページ▶

いじめについて考える
ピンクシャツデー

2007年、カナダの男子学生がピンクのシャツを着ていじめに遭ったことを発端に、世界各地に広まったいじめ反対運動「ピンクシャツデー」。全国のYMCAも毎年取り組んでいます。

YMCAピンクシャツデーの目的

- ・多くの人がいじめの問題を自分事としてとらえ、「いじめをなくそう」というメッセージを自ら発信し、行動する機会とする。
- ・一人ひとりが互いの存在を認め合い、支え合い、自分らしく生きていける社会の実現を目指す。

今年のピンクシャツデーは2月28日(水)。熊本YMCAではこの日を中心とした1週間をピンクシャツウィークとして取り組みます。ピンクの服や小物を身につけて、一緒にいじめや差別について考える機会を持ちましょう。

問 Tel 096-353-6397



熊本YMCA功労常議員のご紹介

熊本YMCAのボランティア会員の代表である常議員をのべ8年(※旧会則では2期)以上務め、満70歳を超えた皆さんには常議員会において議決のうえ、功労常議員の称号を贈っています。ただし、現に常議員である者は除きます。これまでの13名に加え、11名が功労常議員になりましたのでご紹介します。

<50音順 敬称略>

井上新	内村公春	大村豊	菅正康
小堀鈴代	最相博子	時任幸四郎	福田 稠
吉岡光憲	吉本典子	米倉 容子	

日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 条 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.24

総主事 光永 尚生

優しい笑顔の記憶
～渡辺和子さんの生涯より～

2024年の新年をお祝い申し上げます。皆様にとって、素敵な1年が与えられるように心からお祈りしています。いつもYMCA運動にご理解とご協力、ご奉仕を賜わり感謝申し上げます。

1945年、ちょうど第二次世界大戦が終わり

日本が敗戦した時に、渡辺和子さんは18歳でキリスト教の洗礼を受けました。のちに、信仰と教育に身を捧げ、多くの人々に心の糧を与えてくれました。1927年に北海道旭川で生まれた渡辺和子さんは、父親を早くに亡くした後、たいへん厳しい母親に我慢と努力を教えられました。そのため、成績は常にトップでしたが、いつしか負けず嫌いで高慢な優等生になっていた自分に嫌気がさして、謙虚で心の温かい人に生まれ変わりたいとの思いから洗礼をうけます。

その後、身近で出会った神父、シスターたちの献身的な姿に惹かれて、自らも1956年に29歳で修道院に入ります。岡山のノートルダム清心女子大学の教授となり、1963年には、2代目

学長が急逝されたため、36歳の若さで学長に就任します。重責の中にあって、心の余裕を失っていきました。その時、「神様が置いてくださったところで咲きなさい」と書かれた詩との出会いをきっかけに、同じ境遇でも自分が変わることと周りが変わることを知り、心の平静を取り戻していったそうです。愛をもって人を励まし、元気づけた多くの著書と優しい笑顔の記憶を私たちは忘れません。

2024年が平和への第一歩となるように、私たちのYMCA運動を通して、引き続き、祈りから始め、祈りで終わる中で、「平和を創り出す人々」の働きを進めて参ります。皆様のご参加など宜しくお願いいたします。

R | E | P | O | R | T

子ども

保護者と支援者にむけて 子育て支援講演会

熊本YMCAは、2017年に放課後等デイサービス「YMCA自由なイルカたち」、2023年に児童発達支援事業「YMCAりとするすてっぷ」を開所し、子どもたちと家庭に寄り添いながら、子育てと子育てを支援しています。その一環として、2023年11月22日(水)に熊本城ホール会議室で「子育て支援講演会」を実施しました。子どもを持つ世代や、熊本YMCA学院こども保育科の学生など、43名が参加。よこはま発達クリニック公認心理師・臨床心理士である佐々木康栄さんが「子育てに役立つ工夫」をテーマに講演しました。

ました。

佐々木さんは、保護者たちに「『〇〇であるべき』と決めつけず、子どもに寄り添い、やれたら良いこととやれることは違うということを認識する必要があります」と解説。また、支援者の在り方について、「『伝えたいことは落ち着いて』、『否定的・高圧的・威圧的にならない』、『親子に共感を』、『いつも敬意を払い接する』という姿勢を大切にしてください」とメッセージを送りました。

YMCAりとするすてっぷ 熊本四季子



クリスマス

YMCA年末募金

12月、熊本YMCAの各拠点では様々なクリスマス行事を行っています。2023年12月16日(土)にはYMCA東部センターがクリスマス礼拝&コンサートを開催しました。東部センターを拠点に子どもたちの居場所づくりに取り組んでいる「ぷらっとほーむ」に参加する子どもたちや保護者、近隣住民などが来場。礼拝は日本バプテスト連盟東熊本キリスト教会牧師の三上充さんが「恵まれた女性よ!」と題して奨励しました。

続いて行われたコンサートはぷらっとほーむの

東部センターで礼拝&コンサート

子どもたち、ユースボランティアリーダーたちによるハンドベルでスタートしました。続いて、中川恵理子さんをはじめとする5名の音楽家の皆さんがボランティアで出演。ギターやピアノ、ヴァイオリンなどを交えながらクリスマスソングなどを演奏し、会場は温かな雰囲気に包まれました。

来場者から寄せられた募金は、YMCA年末募金を通して、子どもたち、若者たちの支援、国際協力に用いられます。

YMCA東部センター 伊藤真太郎



社会貢献

子どもたちの職業観を育む おしごとカフェを開催

企業と企業人の社会貢献を推進するYMCAフィランソロピー協会が、2023年12月26日(火)、児童養護施設で暮らす子どもたちなどを対象とした「おしごとカフェ」を開催しました。子どもたちの「仕事観」や「職業観」を育むこと、将来の担い手育成に取り組むことが目的。YMCA本館を会場に、子どもたち、引率者ら17名が参加しました。

出展者として5企業・団体から9名が参加し、はじめに各企業が自社の魅力をアピールした後、ミニマナー講座として名刺交換の練習を行いました。続いて、子どもたちがグループに分かれて、各企業のブースをまわりました。はじめは緊張した様子の子

どもたちも、企業人とのふれあいの中で次第に笑顔が見られるように。各社、工夫を凝らした説明に、子どもたちは真剣な様子で聞き入り、積極的に質問をする姿も見られました。

子どもたちからは「いろいろな話を聞いて、将来就きたいと思う仕事の幅が広がりました」などの感想が聞かれました。

ICR 大塚永幸



熊本YMCA学院建築科1年生 熊本県建築士事務所協会主催コンペで入賞

建築科の1年生の中村優岐さんと工藤佳子さんが、熊本県建築士事務所協会創立60周年記念事業として実施されたコンペにおいて入賞を果たしました。応募総数58作品の中から高校生部門8作品、大学・社会人部門7作品が選出されたものです。

11月28日(火)に
YMCA本館で
表彰状の授与がなされた



工藤佳子さん(写真左から2番目)

コンペに参加してみて、作品制作をする中で、自分の中のイメージを形にして相手に伝えることは、こんなに難しいことなのだ再認識しました。たくさんの方のYMCAの講師の方に相談しながら制作したので、入賞という形で皆様のご期待に応えられて嬉しいです。これからもコンペや資格取得にチャレンジし、将来の自分のために、たくさんの経験と知識を得たいです。

中村優岐さん(写真左から3番目)

今回のコンペはクラスメイトの工藤さんに「応募してみない?」と声をかけてもらい、「やってみよう」と決意しました。私は以前、家具・インテリア関係の仕事をしたことがあり、もっとレベルアップして建築を学びたいと思い、熊本YMCA学院に入学しました。学びなおしを決意するまでに不安もありましたが、一歩踏み出して良かったと心から思っています。



第8回 熊本YMCA インターナショナル・ チャリティーラン

YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざして全国で開催されています。

第8回熊本YMCA大会はリアル×リモートのハイブリッド開催。11月26日(日)から12月3日(日)まで、参加者の皆さんが走った距離をオンラインで申告しました。大会初日には益城町総合運動公園でオープニングランを開催し、444名が参加。運営ボランティアなどを含む約500名が来場しました。



仮装コレクション

みんなで
楽しもう!



マリオが来た!



熊本YMCA学院の学生たちも参加



映画泥棒がジュラシック・パークを盗撮?



▲ファミリーラン、グループラン、個人ランを実施



▲ボッチャ体験や車いす走行、ブラインドラン体験も



わたしと聖句



日本ナザレン教団 熊本ナザレン教会
鹿児島ナザレン教会
中出 牧夫

コリント人への手紙第一 13章13節

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

希望を見つめて

新しい年2024年を迎えました。あなたにとってこの年が喜びと希望に満ちた年であることを心からお祈り致します。

新しい年を迎え、私が最初に与えられた聖書のことは、「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」です。過ごしてきた2023年はどんな年でしたでしょうか。コロナがようやく下火になったかと思う間もなく、ロシアによるウクライナ侵略、程なくして今度は、ハマスの攻撃に対するイスラエルの反撃による戦いが今も続いています。かと思えば、日本の政治も混沌とした状況になっています。四方八方真っ暗闇じゃござんせんか。けれども、新しい年の初めに「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」の聖書の言葉に、暗闇に輝く光を見ました。

神様がすべての人に与えてくださった十字架の愛。死んだけれども甦って今も生きておられるイエス様を信じる信仰によって与えられる永遠の希望。これはどのような状況にあったとしても決して色あせることはありません。いえ、闇が深ければ深いほど光輝くのです。ですから、あなたにとって、そして私にとっても迎えたこの年は、喜びと希望に満ちた年なのです。周りの暗闇ではなく、希望を見つめてこの年を歩んでいこうではありませんか。「信仰と、希望と、愛」はいつまでも残ります。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／大塚 永幸
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2023年度基本聖句

マタイによる福音書 7章7節

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。